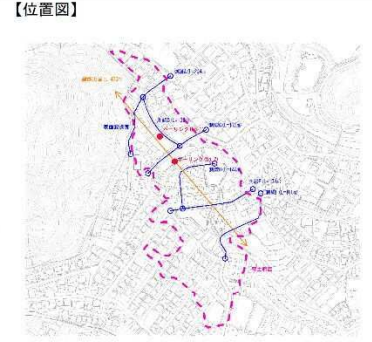
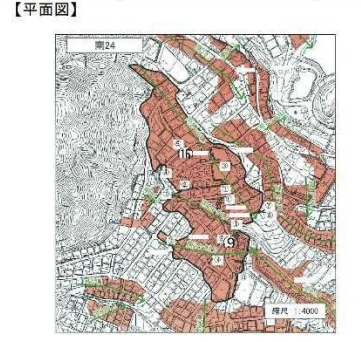
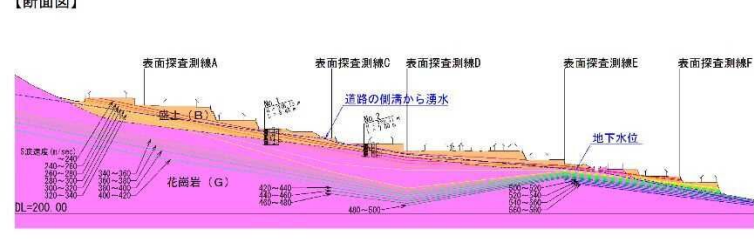
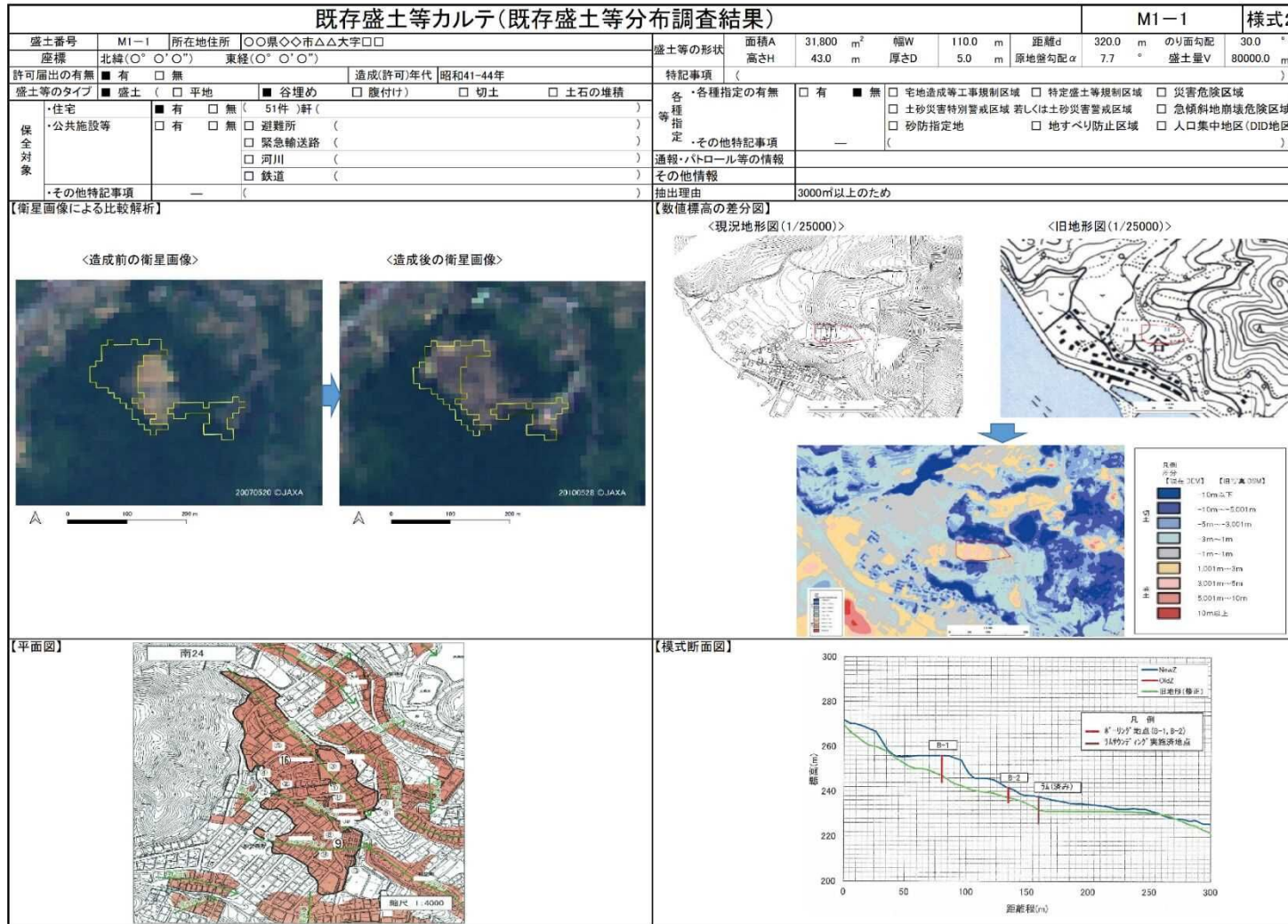


参考4.4 既存盛土等カルテの例

既存盛土等カルテ(概要・総評)						M1-1	様式1																														
<p>【位置図】</p> 						<p>【平面図】</p> 																															
<p>【断面図】</p> 																																					
<p>【地盤定数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>代表N値</th> <th>単位体積重量 (kN/m³)</th> <th>粘着力 (kN/m²)</th> <th>内部摩擦角 (°)</th> <th>せん断波速度 (m/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土</td> <td>9</td> <td>20 (試験値)</td> <td>0 (試験値)</td> <td>38 (試験値)</td> <td>400以下</td> </tr> <tr> <td>花崗岩</td> <td>6.5</td> <td>18.6 (計算値)</td> <td>59.5 (計算値)</td> <td>38.5 (計算値)</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>							代表N値	単位体積重量 (kN/m³)	粘着力 (kN/m²)	内部摩擦角 (°)	せん断波速度 (m/s)	盛土	9	20 (試験値)	0 (試験値)	38 (試験値)	400以下	花崗岩	6.5	18.6 (計算値)	59.5 (計算値)	38.5 (計算値)	-	<p>【安定計算結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>常時</th> <th>地震時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひな壇部分(上)</td> <td>5.453</td> <td>1.718</td> </tr> <tr> <td>ひな壇部分(下)</td> <td>12.384</td> <td>2.297</td> </tr> <tr> <td>盛土全体</td> <td>4.871</td> <td>1.573</td> </tr> </tbody> </table>			常時	地震時	ひな壇部分(上)	5.453	1.718	ひな壇部分(下)	12.384	2.297	盛土全体	4.871	1.573
	代表N値	単位体積重量 (kN/m³)	粘着力 (kN/m²)	内部摩擦角 (°)	せん断波速度 (m/s)																																
盛土	9	20 (試験値)	0 (試験値)	38 (試験値)	400以下																																
花崗岩	6.5	18.6 (計算値)	59.5 (計算値)	38.5 (計算値)	-																																
	常時	地震時																																			
ひな壇部分(上)	5.453	1.718																																			
ひな壇部分(下)	12.384	2.297																																			
盛土全体	4.871	1.573																																			
<p>【経過観察結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>経過観察区分</th> <th>経過観察(詳細)(詳細調査の待機中)</th> <th>経過観察(詳細)</th> <th>経過観察(概要)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日時</td> <td>2026年8月30日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> </tr> <tr> <td>経過観察状況</td> <td colspan="3"> 湧水状況の変化は認められなかった。一方で擁壁の亀裂の拡大が確認され、一定の連続性が認められた。 </td> </tr> <tr> <td>引継ぎ事項(点検時期、優先度評価区分の見直し等)</td> <td colspan="3"> 擁壁の変状の拡大により、亀裂に一定の連続性が認められた。そのため優先度区分をA2からA1に引き上げた。(2026.8.30) </td> </tr> </tbody> </table>						経過観察区分	経過観察(詳細)(詳細調査の待機中)	経過観察(詳細)	経過観察(概要)	日時	2026年8月30日	年月日	年月日	経過観察状況	湧水状況の変化は認められなかった。一方で擁壁の亀裂の拡大が確認され、一定の連続性が認められた。			引継ぎ事項(点検時期、優先度評価区分の見直し等)	擁壁の変状の拡大により、亀裂に一定の連続性が認められた。そのため優先度区分をA2からA1に引き上げた。(2026.8.30)			<p>安全対策状況</p> <p>復旧対策状況</p> <p>維持管理状況</p>															
経過観察区分	経過観察(詳細)(詳細調査の待機中)	経過観察(詳細)	経過観察(概要)																																		
日時	2026年8月30日	年月日	年月日																																		
経過観察状況	湧水状況の変化は認められなかった。一方で擁壁の亀裂の拡大が確認され、一定の連続性が認められた。																																				
引継ぎ事項(点検時期、優先度評価区分の見直し等)	擁壁の変状の拡大により、亀裂に一定の連続性が認められた。そのため優先度区分をA2からA1に引き上げた。(2026.8.30)																																				
<p>【総評】</p> <p>擁壁・道路の一部に変状が認められ、湧水が確認された。またひな壇部分の傾斜が比較的急である。以上の結果から、当該地点は、優先度区分A2とした。</p>						<p>優先度区分</p> <p>A2</p>																															
<p>【総評】</p> <p>盛土全体およびひな壇部分をとおる滑りを想定し、安定計算を実施した結果、いずれの滑り面でも常時および地震時の目標安全率を満足した。従って、当該盛土は、「崩壊の恐れがない」と判断する。</p>																																					

図参 4.4.1 既存盛土等カルテ(概要・総評)



図参 4.4.2 既存盛土等カルテ (既存盛土等分布調査)

参考5.1 応急対策必要性判断結果の整理例（帳票）

既存盛土等カルテ(応急対策の必要性判断結果)									M1-1	様式3	
調査日時	天気記録	調査日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	【現地確認の可否】			
2014年6月13日 14:00	降水量(mm)	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0	公道から目視による確認が可能			
【位置図】			【現地写真】								
											
			写真1 末端のり面。フェンスの奥は農業用水路。写真2 末端擁壁。練積み。				写真3 切盛境。T字路手前が盛土で、境界部は沈下。				
			写真		写真		写真				
【現地確認結果】								【応急対策の必要性】			
部分的な変状が見られるが、崩壊や崩壊を示唆する変状等なし								なし			

図参 5.1.1 既存盛土等カルテ（応急対策の必要性判断）

表 6.13 安全性把握調査の優先度評価のまとめのイメージ

番号	基本情報				応急対策の必要性判断		安全性把握調査の優先度評価																				優先度区分										
	土地の所在地及び地番		土地所有者等	規制区域の種別	現地確認の可否	現地確認状況	応急対策の必要性	法令許可等の状況			原地盤勾配 (度)	保全対象				各種指定等	盛土等の状況												特記事項								
	市町村	詳細						①	②	③		住宅	公共施設等	その他	離隔		①盛土、切土及び擁壁の変状				②湧水等		③災害防止措置の状況					④		土石の堆積							
			許可・届出の有無	許可等の内容と現地状況の整合性	災害防止措置の有無	盛土上面	擁壁	盛土(切土)のり面	のり面保護工	その他	変状の程度					有無	簡易地盤調査による地下水位 (GL-m)	盛土、切土	擁壁	崖面崩壊防止施設	排水施設	その他	盛土の下の不安定土層	地盤の勾配	空地の確保	鋼矢板等の設置		地表水等の浸透への措置									
1上	〇〇市	△△1丁目	××社(代表〇〇)	宅造	可	変状等確認されず	不要	有	〇	〇	14	多数	学校	—	×	—	亀裂	無	ハラミ	無	無	崩壊を示唆	有	—	不十分	—	—	不十分	—	無	—	—	—	—	地形が屈曲しているため、上流側と下流側に区分。崩壊が発生しはじめており二次被害のおそれあり。	A1	
1下	〇〇市	△△1丁目	〇〇氏	特盛	不可	—	—	有	×	〇	14	多数	鉄道	—	×	—	亀裂	亀裂	崩壊	剥離	無	すでに崩壊	痕跡	—	不十分	不十分	不十分	不十分	不十分	無	—	—	—	—	—	S	
2	〇〇市	□□6丁目	不明	宅造	ドローンにより可	変状等確認されず	不要	有	×	×	5	多数	国道	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1/10未満	無	無	無	不十分	土留め等の措置がなく、崩壊が発生した場合に国道に影響する恐れがある	—	
3	〇〇市	▲▲1丁目	不明	特盛	可	変状等確認されず	不要	無	—	×	18	2戸	無	—	×	—	無	亀裂	無	段差	無	その他	有	2.30	十分	不十分	—	不十分	—	無	—	—	—	—	擁壁に部分的な亀裂や段差あり。湧水も認められることから、地下水も豊富と判断。	A2	
...	
29	〇〇市	□□6丁目	▲▲社(代表□□)	特盛	可	変状等確認されず	不要	有	〇	〇	18	多数	公園	—	×	—	無	無	無	無	無	その他	痕跡	—	十分	十分	十分	不十分	—	不明	—	—	—	—	変状等は無く、災害防止措置も十分であるが、湧水の痕跡が確認された。	C1	
30	〇〇市	■1丁目	不明	宅造	可	既に崩壊発生	必要	有	〇	×	25	5戸	国道	—	×	—	亀裂	ズレ	ガリ	無	無	無	無	—	十分	不十分	—	十分	—	無	—	—	—	—	盛土上面の複数の亀裂や擁壁のズレがあり、一定の連続性が認められた。	A1	
31	〇〇市	■2丁目	▲▲氏	宅造	不可	—	—	無	—	×	10	多数	農業用ため池	—	×	—	隆起	無	無	クラック	根曲がり	その他	無	—	不十分	十分	—	十分	不十分	有	—	—	—	—	盛土上面の隆起や法面保護工のクラックがあり、一定の連続性が認められた。	A1	
32	〇〇市	■3丁目	不明	特盛	可	変状等確認されず	不要	無	—	×	5	無	県道	—	×	—	無	無	無	無	無	無	無	—	不十分	十分	—	十分	—	不明	—	—	—	—	のり面保護工が十分でない	B2	
33	〇〇市	■4丁目	××社(代表□■)	特盛	可	崩壊は始めている	必要	有	×	〇	10	無	廃棄物処理施設	—	×	—	無	無	無	無	無	無	無	—	無	十分	—	十分	—	無	—	—	—	—	崩壊発生のおそれはない	D	
34	〇〇市	▽▽1丁目	不明	特盛	可	変状等確認されず	不要	有	×	×	4	3戸	無	—	×	—	無	無	無	無	無	無	無	痕跡	—	不十分	十分	—	不十分	—	有	—	—	—	—	変状等は認められないが湧水の可能性があり、のり面勾配が急である	B1

参考 6.7 安全性把握調査の優先度評価のとりまとめ例（帳票）

既存盛土等カルテ(安全性把握調査の優先度評価(1))							M1-1	様式4				
調査日時	天気記録	調査日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	現地踏査	M1-1	様式4		
2014年9月13日 14:00	降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	0.0					
基礎資料整理												
盛土等のタイプ	■ 盛土 (□ 平地)	■ 谷埋め (□ 露付け)	□ 切土	□ 土石の堆積								
法令許可等の状況	①許可・届出の有無	■ 有 □ 無	②許可等の内容と現地状況の整合	■ 有 □ 無								
原地盤勾配	(7.7) 度											
保全対象	住宅	■ 有 □ 無	() 軒									
	公共施設等	■ 有 □ 無	■ 避難所 ()	□ 緊急輸送路 ()	□ 河川 ()	□ 鉄道 ()						
	その他特記事項											
保全対象との距離	□ 十分	■ 不十分										
	各種指定の有無	□ 有 ■ 無	宅地完成工事規制区域	□ 特定盛土規制区域	□ 災害危険区域	□ 土砂災害特別警戒区域 若しくは土砂災害警戒区域	□ 急傾斜地崩壊危険区域	□ 砂防指定地	□ 人口集中地区 (DID地区)			
その他特記事項												
現地踏査												
評価指標	箇所	確認項目	盛土	切土	現地状況							
	盛土上面	亀裂	○	□ 有 ■ 無 ()								
状況の種類	盛土上面	沈下	○	□ 有 ■ 無 ()								
		隆起	○	□ 有 ■ 無 ()								
		補修履歴	○	□ 有 ■ 無 ()								
		擁壁	擁壁とその基礎の状況	○	□ 有 ■ 無 ()							
		擁壁背面の水溜り等	○	□ 有 ■ 無 ()								
	のり面保工	補修履歴	○	□ 有 ■ 無 ()								
		のり面保工の変状	○	□ 有 ■ 無 ()								
		崩壊、崩壊跡	○	□ 有 ■ 無 ()								
		ガリ浸食跡、洗堀	○	□ 有 ■ 無 ()								
		ハラム、段差	○	□ 有 ■ 無 ()								
盛土(切土)のり	亀裂	○	□ 有 ■ 無 ()									
	排水工の変状やのり浸食	○	□ 有 ■ 無 ()									
	肌落ち、小落石の痕跡	○	□ 有 ■ 無 ()									
その他	災害の痕跡	○	□ 有 ■ 無 (既往の地震により変状)									
	根曲がり	○	□ 有 ■ 無 ()									
	道路の変状	○	□ 有 ■ 無 (道路側溝に亀裂、切盛境で沈下)									
	不適切な土地利用による荷重	○	□ 有 ■ 無 ()									
(参考)周辺状況	亀裂や擠りに富む岩盤	○	□ 有 ■ 無 ()									
	風化した岩盤	○	□ 有 ■ 無 ()									
	流れ壁構造	○	□ 有 ■ 無 ()									
	固結度の低い地層	○	□ 有 ■ 無 ()									
その他特記事項	断層破砕帯	○	□ 有 ■ 無 ()									
	切土周辺の自然斜面の亀裂等	○	□ 有 ■ 無 ()									
その他特記事項												
実状の種別												
■ 既に崩壊が発生し又は崩壊し始めている			□ 崩壊発生を承検する実状								■ その他部分的な実状	□ なし
崩壊の前後や道路の大規模な陥没・隆起等、盛土の崩壊が発生している												
盛土のり面に部分的な崩壊や、のり面に大規模な亀裂・明瞭な段差が生じる等、崩壊し始めている(崩れかけている)												
盛土のり面に大規模な亀裂・明瞭な段差が生じ、擁壁が突きハラム出している等、崩壊し始めている(崩れかけている)												
一定の連続性を有し、点在する複数の変状をつなぐ崩壊ブロックが想定される(確認できる場合は、実状の規模拡大等の進行性がある)												
※目安の例	崩壊発生を承検する実状が認められる	盛土上面	面的に連続した、クラック、陥没、沈下、隆起など、盛土上面において、崩壊ブロックの移動を承検する実状が認められる									
		擁壁	擁壁の連続したクラック・傾斜、面的な目地ズレ・ハラムなど、擁壁全体の移動を承検する実状が認められる(水平クラックや連続した経路などは注意)									
	のり面	のり面の連続したクラック、傾斜、面的なハラム・凹みなど、崩壊ブロックの移動を承検する実状が認められる(法面部の亀裂や沈下、法尻部の押し出し・隆起などは注意)										
	盛土等全線	一定の連続性や進行性は確認されないものの、盛土のり面や小傾に局所的・部分的な実状が認められる。										
その他部分的な実状が認められる	盛土上面	部分的な盛土上面のクラック、沈下、隆起などが認められる										
	擁壁	部分的な擁壁のクラック、傾斜、目地ズレ・ハラムなどが認められる										
のり面	部分的なクラック、ハラムなどが認められる											
	のり面にガリ浸食跡が認められる											
盛土の安定性に関係ない判断できる、擁壁単体の劣化や凍結融解による亀裂、樹木の根による亀裂・隆起等												
【(2) 湧水等の有無】												
湧水等がある	確認項目	盛土	切土	現地状況								
		盛土(切土)のり面からの湧水	○	□ 有 ■ 無 ()								
湧水等の可能性がある	確認項目	擁壁水抜き穴からの恒常的な出水	○	□ 有 ■ 無 ()								
		ひな壇部分の擁壁前面部の出水	○	□ 有 ■ 無 ()								
		排水工や擁壁が恒常的な湧り	○	□ 有 ■ 無 (道路側溝から湧水)								
		盛土(切土)のり面の排水工の水没	○	□ 有 ■ 無 ()								
		排水工の目地・亀裂からの地下水浸水	○	□ 有 ■ 無 ()								
		のり底のため池等の湧水水位	○	□ 有 ■ 無 ()								
		既存井戸水位	○	□ 有 ■ 無 ()								
		上流からの表流水の浸透	○	□ 有 ■ 無 ()								
		帯水層や湧水箇所との盛土であることが明らかな場合(文献調査含む)	○	□ 有 ■ 無 ()								
		簡易地盤調査による高い地下水位	○	□ 有 ■ 無 ()								
【簡易地盤調査結果】 地下水位 ()m 盛土厚に対する地下水位 ()												
湧水等の可能性がある	確認項目	盛土(切土)のり面からの湧水の痕跡	○	□ 有 ■ 無 ()								
		擁壁水抜き穴からの出水の痕跡	○	□ 有 ■ 無 ()								
		ひな壇部分の擁壁前面部の出水痕跡	○	□ 有 ■ 無 ()								
		排水工や擁壁が黒ずんでいる	○	□ 有 ■ 無 ()								
		のり底の排水工の水没の痕跡	○	□ 有 ■ 無 ()								
		のり底に調整池やため池がある	○	□ 有 ■ 無 ()								
		集水地形(浸漬等)に位置する盛土	○	□ 有 ■ 無 ()								
		切土背面に広い集水地形	○	□ 有 ■ 無 ()								
		盛土上のガレージ内等の溜り	○	□ 有 ■ 無 ()								
		水を好む植物がある	○	□ 有 ■ 無 ()								
その他特記事項												
湧水等の有無												
□ なし			□ あり			□ 可能性あり			□ なし			
(3) 災害防止措置が不十分か	確認項目	盛土のり面勾配が急	○	□ 該当 ■ 非該当	(勾配(1:)のり面構造ではない)							
		適切な間隔で小段が設置されていない	○	□ 該当 ■ 非該当	(小段高さ()m、段数()段)							
		適切なり面保工が設置されていない	○	□ 該当 ■ 非該当								
		ひな壇部分の傾斜が急	○	□ 該当 ■ 非該当	(傾斜角(5~8)°)							
		適切な擁壁構造ではない	○	□ 該当 ■ 非該当	(高さ(4)m、壁面勾配(1:) (擁壁種類 □ 鉄筋コンクリート □ 重力式コンクリート □ 砕石積 □ 空石積 □ 増積み □ 二段 □ 積出し床版付) 適格擁壁に該当							
		適切な排水施設が設置されていない	○	□ 該当 ■ 非該当								
		盛土等の設置により、地表水が集中するなどの状況だが、排水施設がない	○	□ 該当 ■ 非該当								
		土地利用等による盛土(切土)への過大な荷重にに対し対応がとれていない	○	□ 該当 ■ 非該当								
		その他特記事項										
		災害防止措置が不十分か										
□ 不十分			□ 十分									
定(不安)盛土下の有無	盛土周辺の崖壁、崩積土											
	盛土周辺の沖積粘性土											
盛土周辺の沖積砂質土												
地すべり地形上の盛土												
周辺の湿地状やぬかるんだ地盤												
その他特記事項 (既往の地震において液状化と想定される現象が認められた)												
盛土材料(判別している場合記載) (盛土材は砂質土)												
盛土下の不安定な土層の有無												
□ なし			□ あり			□ 不明						
擁壁・道路の一部に局所的な実状が複数認められ、湧水が確認された。またひな壇部分の傾斜が比較的急である。以上の結果から、当該地点は、優先度区分Aとした。												
										優先度区分		
										A2		

図参 6.7.1 既存盛土等カルテ(安全性把握調査の優先度評価(1))



図参 6.7.2 既存盛土等カルテ (安全性把握調査の優先度評価 (2))